

中国春季リーグ戦男子1部 First stage 結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

4/18、19に広島大学北体育館において、中国春季リーグ戦男子1部 First stage が開催されました。

広島大学男子の結果は、以下のとおりです。

vs 広島経済大学

●1-3 (22-25、25-23、17-25、22-25)

vs 東亜大学

●0-3 (17-25、13-25、21-25)

vs 広島文化学園大学

●1-3 (20-25、15-25、25-21、9-25)

vs 福山平成大学

●0-3 (19-25、12-25、19-25)

(中国学連 HP)

<https://chugoku.hiroshima-u.ac.jp/league-haru-top.html>

2026年の公式戦開幕週、結果としては14年ぶりの開幕4連敗となりました。当時の1部リーグが私立大2校と国立大4校、現在が私立大5校と国立大は広島大学のみと状況は大きく変わり、これまでのように勝ちを重ねられる環境ではなくなりましたが、これからへの期待という点では内容の濃い4試合だったと思います。中心メンバーが入れ替わり、コート内には2年生が最大5人となるほどチームの若返りが進んだ中で、若さゆえの課題はもちろん目立ちましたが、若さあふれるからこそその大胆さ、躍動ぶりは非常に見応えがありました。

特に、この4試合で途中出場からスタメンを勝ち取るまで飛躍したサイドアタッカーの西川(2年・滋賀・虎姫高校)は、ライト平行やバックアタック、ジャンプサーブと言った持ち味の攻撃面だけではなく、レシーブ面では不安定なチームの救世主と呼べるほど軽快な

動きを見せてくれました。出場当初は守備面での課題を感じましたが、本数を重ねるうちにみるみる上達し、4試合目の最後のキャッチでは足の運びからボールのリズムまで文句のつけようがなく、西川の成長とともに相手のサーブが徐々に弱くなっていったことが印象的でした。

他の5チームの選手も含めて言えることですが、西川の一番良いところは誰よりもバレーボールを楽しんでいるところです。成功しても失敗しても表情が豊かなので、見ていて目が離せません。技術面ではまだまだ粗削りな部分が多いものの、人を惹きつけられる力は間違いなく自分自身を成長させるエネルギーにつながります。今はチームとしてチャレンジすること、チャレンジした上でのミスは許容される段階なので、小さく縮こまる必要は何一つありません。良いプレーが出たから表情が良くなる、ではなく、良い表情をしているから良いプレーが出る、ことを西川が体現してくれていますので、まずはチーム全体として、序盤、中盤、終盤、どの1点、誰の1点でも全員が良い表情でいることを目指して欲しいと思います。4連敗という結果ほど相手との力差は感じません。自分たちのポテンシャルを引き出す努力を一人一人がして、リーグ戦を通してチームとして逞しくなれるように頑張りましょう。

今週末は、山口県ゼオンアリーナ周南で男女1部 Second stage が行われます。

また、土曜日には同会場で、女子2部1日目が行われます。

引き続きよろしく願いいたします。